

先行プレスリリース

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



大西徹

Onishi Shigeru: Photography and Ink Painting

2026 1.31 Sat.

3.29 Sun.

大西茂 写真と墨象 (仮称)

会期 | 2026年1月31日(土) - 3月29日(日)

会場 | 東京ステーションギャラリー (JR 東京駅 丸の内北口 改札前)

東京都千代田区丸の内1-9-1 tel. 03-3212-2485

休館日 | 月曜日 (2/23、3/23 は開館)、2/24

開館時間 | 10:00 - 18:00 (金曜日 20:00 閉館、入館は閉館の30分前まで)

主催 | 東京ステーションギャラリー (公益財団法人東日本鉄道文化財団)

企画協力 | MEM

日本の美術館では初となる大西茂 (1928-1994) の個展を東京ステーションギャラリーで開催します。数学・写真・墨象を越境する独自の芸術で、国際的に活躍した「戦後日本美術の鬼才」。数理を究め、激しく躍動する造形表現を探求した彼の全貌を紹介する展覧会です。



1



2

数学、写真、そして墨象
唯一無二の道歩んだ孤高の芸術家の全貌

岡山県に生まれた大西茂は、北海道大学で数学を研究するかたわら、位相数学 (トポロジー) を応用した独自の方法論で写真と墨象による表現を探求しました。1953年に東京で初個展を開催。瀧口修造をはじめ多くの評論家たちに高く評価されました。その後、ミッシェル・タピエに見出されてアンフォルメル潮流に合流し、活動の場をイタリアやフランスへと広げていきました。世事や名利に固執することなく、ただひたすらに“求道”の制作に明け暮れた大西。生涯貫かれたストイックな姿勢は孤高と称するにふさわしく、作風はまさに唯一無二の芸術といえるでしょう。



3

国際的な注目が集まる日本の1950s-1970s
ミッシングピース・大西茂が戦後美術を再び沸騰させる

戦後日本が躍動を始めた1950年代。大西は位相数学に基づく独創的な写真と墨象を世に問いました。瀧口修造、具体美術協会、ミッシェル・タピエなど同時代のパイオニアたちを矚目させた彼の芸術は、いま再評価の途上にあります。国際的に活躍した“知られざる異才”の探究は必見。こんな逸材が日本初回顧展!? 戦後日本美術は大西茂でまだまだ面白くなる。

欧米の有名美術館が大絶賛
日本の美術館では初となる回顧展を
東京ステーションギャラリーで!

日本でほとんど知られていなかった大西は2020年代に入り、海外各国でにわかに注目を集めています。ニューヨーク MoMA に作品が収蔵され、アムステルダム FOAM、バレンシア Bombas Gens Centre d'Art で個展が開催されました。アンフォルメルの国際的な広がり注目するアメリカやヨーロッパのキュレーター・美術史研究者の眼にとまり、その重要性が強調されているのです。

表 題不詳 (部分) 1950年代 セラチンシルバークラフト
1 セルフポートレート 1950-1960年代 セラチンシルバークラフト
2 題不詳 1950年代 セラチンシルバークラフト
3 題不詳 1962年頃 紙、墨
上記全て ©Estate of Shigeru Onishi, courtesy of MEM

広報に関するお問い合わせ: 東京ステーションギャラリー学芸室 tel. 03-3212-2763

本展は当館単館での開催です。他館への巡回予定はございません。